

杉田絹枝・杉田勇共訳

『フーフェラント 自伝／医の倫理』

クリストフ・ヴィルヘルム・フーフェラント (Christoph Wilhelm Hufeland 1762-1836) は西洋医学とその思想を伝えて、幕末の医学界に大きな影響を及ぼした人物である。

いかに大きな影響を及ぼしたかは、神経熱論(坪井信道訳)、病学通論(緒方洪庵訳)、扶氏経験遺訓(緒方洪庵訳)、幼々精義(堀内忠龍訳)、濟生三方(杉田成卿訳)、濟生備考(杉田成卿訳)、察病亀鑑(青木浩齋訳)、扶氏診断(山本致美訳)、養生法(辻如介訳)……など、フーフェラントの訳書が幕末に多数刊行された事実が、雄弁にそれを物語っている。

以上は医師の書であるが、このほか杉田成卿の訳した倫理の書『医戒』もまた西洋思想を伝えて、勉学を学ぶ人々に、多大の感動と感銘を与えた。当時、わが国には「仁の医師」が説かれていた。「仁」とは儒教の説くところで、ここでは「礼」という節度が設けられ、上下の秩序が設定されていたから、どうしても上下差別の概念が混入してきてしまう。このようなどとき、人間平等観、絶対的人間尊重の医学倫理が説かれたのである。衝撃的な感動を覚えたのも当然であったであろう。それはルソーに初めて接したとき、「泣イテ讀ム、ルソー民約論」と詩(うた)った宮崎八郎の感動と少しも変らぬものであったろう。

私も成卿訳の『医戒』に初めて接したとき、身ぶるいのす

るような感銘を受けたことを覚えている。

以来、フーフェラントとは如何なる人物なのか、その全貌を知りたいと願っていた。

しかし菲才の私に知り得たのは、青木浩齋の「扶^{ユエ}歐^{ヘン}士^トハ一生ノ精神ヲ、学ト濟生ニ尽シ」た「曠古ノ英雄」という文章と三浦つとむ氏の略伝にしか過ぎなかった。

このようなときに、このたび、杉田絹枝・杉田勇の両氏によって、『フーフェラント自伝／医の倫理』が翻訳・刊行されたのであって、私の長年の渴を癒すものがある。恐らく渴の癒されるのは私一人だけではない。多くの人の希望の訳書であろう。一読してフーフェラントの全人間性にふれた感がする。

また、*Die Verhältnisse der Ärzte* が「医の倫理」として、あわせて翻訳されていることも、「医の倫理」がかまびすしく論ぜられている折柄、時宜を得た出版と云わなければならぬ。

本訳には既に杉田成卿の名訳「医戒」があるが、現代人には古典的で読み難い点からも時宜を得た訳書と云えよう。

訳者は哲学専攻の埼玉医科大学教授とドイツ在住のデュースブルク大学講師・翻訳家のかたがたである。

訳はわかり易く正鵠である。例えば「患者に対する義務」のなかで成卿は「患者ヲ視ルコト宜シク正鵠ノ如クナルベシ。見テ弓矢ノ如クナスベカラズ」と訳しておられる。名訳であるが、わかり難い文章でもある。本書では「医師は患者を決

して手段として見るのではなく、常に目的として見なければなりません」と原書に忠実に正確にわかり易く訳されておられる。(原著は Nie betrachte er den Mittel, sondern immer als Zweck.)。その上で、カントの『道徳形而上学原論』第二章、「君自身の人格ならびに他のすべての人の人格に存する人間性を常に同時に目的として取扱ひ、決して単なる手段として取扱われないように行為せよ」、を引用して註解されておられるのは、親切で適切である。

そのあとを続けて成卿は苦心して、名文を以て「之ヲ療スルニ方リテハ、試験ヲ行フガ如クナルベカラズ。宜シク知ルベシ、人ハ天地ノ共ニ生育スル所ナルヲ。」と訳しておられて、ちよつと分かりにくいのが、本書では「患者を生物実験の単なる対象として、あるいは単なる医術の対象として見るのではなく、患者を人間として、自然そのものの最高目的として見なければならぬ」と原著に忠実に現代人にわかり易い文章を以て訳されておられる。

(原著： nie als bloßen Gegenstand eines Naturexperiments, oder der Kunst allein, sondern als Menschen, als höchsten Zweck der Natur selbst)

筆者は成卿の『医戒』を頭の中におきながら本書訳を読み、益するところが多かった訳であるが、幸いにも本書には成卿の『医戒』と緒方洪庵の『扶氏医戒之略』があわせて掲載されて、読者の便宜を計っておられる。ぜひ併読をすすめたい。

現在、遺伝子操作や臓器移植が行われて、新しい医師倫理

綱要が論ぜられているが、フーフェラントの『医戒』は時代を超えて、すべての医師の守るべき原点であることにまちがいはない。

フーフェラントの人と思想を伝える本書を必読の書として、すべての医家にすすめてやまない。

(荒井 保男)

(北樹出版刊・東京都目黒区中目黒一―二―一六、電話〇三―三七
一五―一五二五、一九九五年二月発行、A5判、一八二頁、二、
五〇〇円)